

第四回 (株) 有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 14 年 1 月 21 日 16 : 00～

開催場所：(株) 有線ブロードネットワークス本社 13F

出席者 委員：小林亜星、大島綏子、有馬祐行、青木寶久、池田憲一、山本武司、渡辺英夫（順不同・敬称略）
放送局側：8 名

議事内容

1. 放送事業分野に関する商品名の変更、新商品の説明等

- (1) 昨年 12 月より「SOUND PLANET」への商品名変更の報告。
- (2) 昨年 12 月より音楽ファンのための 80 チャンネルセレクトパッケージ「COOL MIX」リリースについての報告。
- (3) 昨年 12 月中旬より放送された「SOUND PLANET」のテレビ CM についての報告。

2. 番組課題

- (1) クラシック番組全般について（全 17 チャンネル）
- (2) 高齢者向け番組の在り方について

3. 番組審議

- BF-36ch「オペラ／声楽」のコンテンツについて、イタリア系のオペラに比重を置きすぎではないだろうか。イタリア系のオペラの楽曲は華やかな要素が強いため、BGM として活用するのであれば、時間帯などの配慮が必要である。古典派の楽曲を取り入れるなど、番組の編成に今後工夫が必要であり、前述部分についての提案を積極的に行っていくべきである。
- クラシック番組全般に関して「室内楽形式」「オーケストラ」「オペラ」「バロック等」といった 4 つの分野が確立していることは大変すばらしいことである。
- クラシックのイメージを「若々しく」伝えていくには、ロシアなどで活躍著しい若い無名アーティストを新人アーティスト特集などの切り口で組み込んで今後取り上げていくのもおもしろいのではないだろうか。
- 高齢者層とクラシックの関係について、BGM のみの番組にとどまらず、日本人の素朴な気持ちをクラシック音楽と絡ませた対談形式の番組を提供することはできないだろうか。
- 高齢者向け番組の在り方については、単に年代別にセグメントを行うことにより「高齢者＝演歌」といった安易な発想をするのではなく、高齢者世代の方々がどのような音楽ジャンル、楽曲に印象を持っているのかを十分検討、分析を重ねたうえで、番組づくりを行っていく必要がある。
- 現在放送されている高齢者向け番組のコンテンツについて、放送されている内容自体は特に問題はないが、トークのテンポなどについてはもっと高齢者が聴きやすいスピードで放送する等の配慮が必要ではないだろうか。
- 高齢者向けの番組を今後制作していくうえで、「高齢者の方々にいかにして音楽を楽しんでもらうか」といった発想も大切だが、「高齢者に対して音楽の楽しさを感じてもらおう仕掛け」という視点で番組編成を考えることも非常に大切である。